

# 京都大学経済学部同窓会会報

京都大学経済学部同窓会 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学経済学部内

## 大変革期を迎えた大学

### ご挨拶に代えて



京都大学経済学部同窓会理事長  
大学院経済学研究科長  
経済学部長  
下谷 政弘

同窓生の皆様、日々ご健にご活躍のことと拝察いたします。

小生、この四月から経済学部長・研究科長をつとめることになりました。どうぞよろしくご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

すでにご案内のとおり、昨年夏、経済学部では、法経本館に隣接して地上八階地下二階、延面積九千平方メートル余りの新営建物を竣工させることができました。お陰様でスペースにゆとりも生まれ、教育研究活動にさらに邁進する環境が整えられました。最上階からは京都の市街も一望できます。ぜひ一度お立ち寄り頂ければ幸いです。

さて、社会のグローバル化やIT革命の波は大学をも変えています。本学部・大学院には現在では、計一九八名もの留学生（学部五十名、修士五七名、博士三八名、研究生四八名、研修

員五名）が在籍するようになっております。対一般学生の比率からいえば、京都大学の中で最も留学生比率が高くなっています。

さらに、昨年度にはアメリカのUCLAとの間で、サテライトを利用した遠隔交換講義をスタートさせ、多数の学生が参加しました。昨年十月には上海の復旦大学と、「上海・関西 経済交流の新世纪」と題するシンポジウムを、また十一月にはロンドンおよびエディンバラへ出かけて、「新世紀に際しての日本経済の変貌」と題する国際シンポジウムを開催しました。本年一月には復旦大学とのセミナーをもち、十二月には韓国の慶北大学校との定例シンポジウムも予定されています。さらにまた、今年十月からはすべてを英語で指導する学位論文指導のコースを大学院博士課程にスタートさせますが、これは経済学系で

は全国でも初めての試みです。新営建物にIT技術の成果が随所に取り込まれたことはいうまでもありません。これらに加えて、大学を取り巻く今日の変化の中で特筆すべきは、二〇〇四年四月に予定されている国立大学の独立行政法人への変更です。近年の大学の变化としては、一九八四年からの大講座化、九六年からの大学院重点化、などがありませんが、この独立行政法人への変更は、大規模な変革です。歴史の一大転換点（遠山文科相）ともいわれるように、国立大学そのものの性格や内容を一変させるものです。また、それにもなう全国の大学における各学問分野ごとの「トップ三十」の選別やCOE (Center of Excellence) 構想など、いよいよ大学にも遅滞きながら「選別と淘汰」の時代がやってきました。

独立行政法人化とは一口に言

って、国立大学の「規制緩和」であり、意思決定の仕組みや財務・人事などのシステムが大学側の「権限と責任」へと大幅に委譲されることとなります。そのためには、自己点検・外部評価が大幅に取り入れられ、また中期目標・中期計画を公開して社会に対する説明責任を明らかにすることとなります。学長・役員会によるトップダウン型の意思決定の重要性も強調されています。学長の選出方式も従来のものから大きく変わります。

さらに、教職員は「非公務員型」となり、兼業規制などがゆるめられる半面、法人雇用という形態をとるように変更されます。他方、「トップ三十」の選別とは、公私立大学をも含めてそれぞれの専攻分野ごとに約三十のCOEを選別して国の予算を集中配分しようとするものです。これは、激変する社会の情勢に即して、大学や専攻分野の間に市場原理を導入し、それらの間での競争を活発化して国際的な研究拠点を構築しようとするものです。

こうした動きは、これまでの国立大学が抱えていた積年の問題点を一挙に改革しようとするものといえます。しかしながら、一方では、学長・役員会への権限集中による学部自治の形骸化を懸念する声があります。また何よりも、「トップ三十」の選別は、多様な研究専攻分野から成り立ってきた大学というものの現場の具体的状況を必ずしも十分に考慮していない、という意見も存在します。いずれにせよ、

現在、本学部・研究科ではこうした大きな変革に直面して、それに適切に対応することはもちろんのこと、たとえばカリキュラムや入試制度の改革、新しい研究科の設置など、新世紀における学部・研究科のあり方を模索しなければならぬと考えています。

以上のように、大学を取り巻く環境はまことに厳しく、また複雑なものとなっております。本学部・研究科では、これまでの輝かしい伝統を受け継ぎ、さらに一層新しい諸課題に鋭意取り組んでいく所存です。なにとぞ同窓生の皆様方にはご理解をいただき、今後とも一層のご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。よろしくご挨拶を上げる次第です。

### 同窓会總會のご案内

平成14年度経済学部同窓会總會を下記の日時に開催いたしますので、何かとご多用のことと思いますが、会員諸氏お誘いあわせのうえご出席賜りますようお願い申し上げます。詳細につきましては、同封のご案内状を御参照下さい。

記  
日時 平成14年10月26日(土) 15時~19時30分  
場所 京大会館

京都大学経済学部同窓会事務局

### 会費納入のお願い

平成14年度(14年4月~15年3月)の同窓会会費5,000円を同封振替用紙で、納入下さいますようお願い申し上げます。

京都大学経済学部同窓会事務局  
住所: 〒606 8501 京都市左京区吉田本町  
TEL 075 753 3419 FAX 075 753 3490

なお、ご住所変更の折は、お知らせ下さいますようお願いいたします。

現在、本学部・研究科ではこうした大きな変革に直面して、それに適切に対応することはもちろんのこと、たとえばカリキュラムや入試制度の改革、新しい研究科の設置など、新世紀における学部・研究科のあり方を模索しなければならぬと考えています。

MBA教育の教育者を養成するための博士コースをも計画しています。また、後者は中国や東アジアとの連携をさらに押し進めるための研究交流拠点であり、その実現に向けて努力しているところ です。

近況報告

回顧と近況

京都大学名誉教授

山田浩之  
(平七退官)



平成七年三月に、私は停年退職した。その時いろいろの感慨があったが、その一つは、実に長く京都大学に在籍したものだ、という想いである。というのは、私は昭和二四（一九四九）年七月に新制大学第一期生として京都大学に入学して退職するまで四五年九月月にわたって在籍したからである。（新制大学の一年目は、準備が間に合わず、七月入学となった。）学部学生としては三年九月、大学院生として五年在学し、博士課程を修

了してすぐ京都大学助手として採用されて、それから三七年間教官として在職したわけである。合計して四五年九月月になり、ひよつとすると、在籍期間としては京都大学の最長記録になるのではないかと、思ったりしている。

月主任研究官として研究する機会があり、学部長としても一年九月月働いたので、けっこうメリハリはあった、といつてよいであろう。

また、研究分野も交通論から地域・都市経済学へと広げ、最近では文化経済学の研究もはじめており、その間関連分野である理論経済学、公共経済学などの学会にも参加したりして、絶えず新しい刺激を受けつつ、たいへん忙しい研究生活であった。そして何より貴重であったの

は、毎年ゼミナールで若い優秀な学生諸君といっしょに勉強ができたことである。ほぼ毎年行っていた夏の合宿や工場見学も実に楽しい思い出である。

さて、京大退官後は一転して、三度職場が変わることになった。最初の二年間は、枚方市にある「大阪国際大学」政経学部教授として、はじめて私学を経験することになる。

そのあと平成九年四月から、東大阪市にある「大阪商業大学」に移った。同大学に地域経済学を中心とする大学院をつくるので、大学院研究科長として来て欲しいとの要請があり、大阪国際大学の了承も得られて、移動したのである。設立準備にもかかわって、大阪商業大学大学院地域政策学研究科の発足と同時に、研究科長に就任した。二年

後には同大学院に博士後期課程の設立も認められ、今年三月には大学院博士課程は無事完成した。

成果を『交通混雑の経済分析』（勁草書房）として昨年出版することができたが、今年三月に「交通図書賞」を受賞することになり、素直に喜んでいる次第である。

アメリカのカジノ調査

京都大学名誉教授

菊池光造  
(平十二退官)



この三月、ハードスケジュールで調査のためアメリカを旅行した。凍結したデトロイトからアトランティックシティを経てメンフィスへ、さらにニューオーリンズからヒューストンを経て砂漠の町ラスヴェガスまで調査のテーマは「カジノ導入の経済的効果と社会的コスト」についてである。私としては、この年になって自分がカジノに足

を踏み入れるなど思いもよらなかつたのだが・・・

私が現在勤務している私立大の学には、「アミューズメント産業研究所」があり、なんと私が所長をやらされることになった。学長は自他ともに認めるギャンブル学の権威であり、昨年からはカジノ研究プロジェクトを立ち上げた。だが率直に言つて、私は自分がこのプロジェクトに関

わることには違和感があった。私は永年にわたって社会政策の研究をしてきたのだ。カジノの研究などに腰が引けても不思議ではなからうというものだ。

しかし考えてみると、カジノは今や時代のトピックスの一つである。石原慎太郎東京都知事は経済活性化と地方財源の視点から東京にカジノ導入を大まじめで提言しており、今年に入っ

て太田房江大阪府知事も大阪でのカジノ導入を提唱している。アメリカでは、周知のように大恐慌後の一九三一年合法化のラスヴェガスは別格として、アメリカ経済が停滞した一九八〇年代の後半からブームとも言われる形で各州でのカジノ合法化・導入が進み、現在では過半数の州でカジノが合法化されている。一方、経済不況の続く日本で、東京のデイズニランドやデイズニシー、関西ではユニバーサル・スタジオ・ジャパンなどが顕著な成功を収めている。二一世紀の成熟社会では、文化やエンターテインメントが経済活性化の起爆剤になるとはよく言

われることであり、その一環として、そしてなによりも逼迫する地方財源の救世主として、個人の好悪とは関わりなくやがて日本でもカジノ合法化が日程のぼる可能性がある。諸般の情報からして、その可能性はかなり高いと思われるが、そのさい経済効果だけを考えるとカジノ導入が論議されるのは極めて危険だと言わねばならない。

この点、合法化先進国？のアメリカでは、真摯な調査にもとづいて全米カジノの現状と問題を整理した大部の報告書が刊行されている。これを読むと、大きな経済効果とともに、依存症、犯罪、青少年問題、家庭崩壊などさまざまな社会的影響についても明らかにされている。この報告書を読んで、私も社会政策の視点からこの研究プロジェクトに参画することに意義を見いだすことができたわけである。アメリカでは多くの州で合法化しただけに、カジノをはじめとするギャンブルについて、各州政府に周知な規制のルールとそれを実施する機関があり、今回の調査で我々は、こうした機関を訪問してヒアリングと資料収集をおこなったのである。この研究プロジェクトの成果については、やがて報告書の形で公にしたいと考えている。

# 私の研究

京都大学大学院経済学研究科教授 塩地 洋

私が今取り組んでいる研究は自動車流通の国際比較である。

このテーマを始めたのは、十三年前に逆上るが、当時の日米自動車摩擦において米国の主張があまりにも傲慢かつ理不尽であったからである。加えて苛立ったことは、日本のマスメディアにおいても米国のステレオタイプ的な日本批判を素直に受け入れる論調が一部に見られたことである。

それ以降、数度の米国現地調査を続けた後に、一九九四年に『自動車ディーラーの日米比較』(九州大学出版会)という著書を米国人との共著で出版し

た。この著書は、日本に対する米国の「日本のディーラーは専売店ばかりだ」「だから米国自動車メーカーは日本に進出できず、米国車が日本で売れない」という批判に対して、日米両国の自動車流通経路の歴史的形過程、日本自動車市場の開放・閉鎖性を事実に基づいて検討をおこない、米国の日本批判が誤りであることを論証しようとしたものであった。一例を示すと、日米の併売店比率を厳密に比較するとそれほど相違はないことが判明した。

ともあれそうした中でより明らかとなったことは、米側から日本批判には、米国の自動車

車ブランドチャイズ・システムこそが正統かつ世界基準であり、日本はその基準から大きく逸脱している」という信条もしくは心情が議論の深層に存在していることであつた。だが米国こそ正統であるという米国「世界基準論はあまりにも自己中心主義である。それどころか逆に、米国の自動車メーカーとディーラーの関係を歴史的に振り返ると、米国こそ国際比較の観点からすると異質な面を多々含んでいるばかりでなく、米国内の他の産業と比較しても、米国の自動車メーカー・ディーラー関係は特異であるとの米国異質論を提起するに到つた。

また、二〇〇二年二月に出版した『自動車流通の国際比較』(有斐閣)である。この著書において日米以外の国も含めた自動車流通の形成過程と現状を明らかにする中で、米国異質論をより詳説することを試みた。とはいえ、この時期には日米自動車摩擦もほぼ消滅し、私の主たる関心も他の論点へ移行しつつあつた。それは自動車ブランドチャイズ・システム自体の制度疲労とその改革という課題であつた。その結論の一つとして、現行の自動車メーカーからディーラーへの卸売価格がモデル期間中固定されている固定的卸売価格制が、値引問題やディーラーの低収益構造の根源であること

この著書の執筆のために、五か国、延べ約四七か所の取材をおこなつた。自動車メーカー、ディーラー(ディーラー・グループ)、インポーター/ディストリビューター、サブディーラー、中古車業者、インターネット販売業者(オンライン・カー・バイイング・サービス)、業界団体、行政機関、研究機関、ジャーナリスト等への調査であつた。一言触れておくと、彼らの中で現行ブランドチャイズ・システムが最善であると考えている人は稀であつた。なんらかの改革が必要であるという点で驚くほど一致していた。

アドバイス等を行うことが主目的であつた。そうした場合は自動車流通に関する私の見解を直接相手側につける、あるいは相手側の関心事に応える真摯な議論を行う格好の機会となつた。その意味でこの著書は、自動車流通システムに関わり、その改革に携わっている多くの実務者のアイデアを何らかの形で集約して生まれたと言える。

そこで米国「基準論をより精緻に批判するために、一九九〇年代後半から英国、中国、韓国等の国も含めた自動車流通システムの国際比較に体系的に取り組むようになった。その中で生

F資本自由化論争(岩波書店、一九九九年)は、一九九〇年代に入ってから、いわゆる「ウォール街」財務省複合体が旗振り役となり、IMFも協定を改正してまで推進しようとしてきた「資本勘定の自由化」に関する代表的な論文を所収したものです。IMF協定では「経常勘定」については為替管理の撤廃を義務づけていますが、資本勘定については各国が独自の規制を設けてもよい建前になっています。日本が一九六四年に八条国に移行すると同時にOECDに加盟し、その後長い期間をかけて慎重に資本の自由化を行ってきたのとは対照的に、多くの

新興市場諸国では八条国に移行すると直ちに資本移動の自由化を急ぎました。しかしアジア危機以降、こうした国々での資本自由化は漸進的に行われるべきであるという見解が主流となり、LTCMの破綻によってお膝元のアメリカでも自由化はトーンダウンしてきたように思われます。

取材調査においては時には、取材相手から逆に質問攻めに会い、こちら側の質問時間よりも長時間費やして質問を受け、議論する場合もあつた。またいくつかのケースでは取材でなく、相手側の要請に基づいた講演や

が課す国際金融規制を履行していることが、IMFコンディショナリティーに取って代わるプレコンディショナリティーとするものです。WFAという超国家組織を新たに設立することは、非現実的という誹りもあります。が、本書におけるWFAは、現実に設立されるべき国際機関としてではなく、国際金融ア

## 出版案内.. 国際金融規制の経済学

京都大学大学院経済学研究科

教授 岩本 武和

私は、国際金融・通貨システムの理論・歴史・制度というテーマを中心に研究しております。『ケインズと世界経済』(岩波書店、一九九九年)では、ケインズが生涯を通じて最も関わりを持ち続けた分野であるにもかかわらず、これまで比較的等閑視

されてきた彼の国際経済分野に関するテキストを、基軸通貨がポンドからドルへ交替していく当時の歴史的コンテキストと、グローバル化の過程で通貨・金融危機が頻発する現在の状況を念頭に置いてまとめたものです。また翻訳(監訳)した『IM

新興市場諸国では八条国に移行すると直ちに資本移動の自由化を急ぎました。しかしアジア危機以降、こうした国々での資本自由化は漸進的に行われるべきであるという見解が主流となり、LTCMの破綻によってお膝元のアメリカでも自由化はトーンダウンしてきたように思われます。

昨年末には共訳『金融グローバル化の危機：国際金融規制の経済学』(岩波書店、二〇〇一年)を出版しました。原著者の一人は、ケインズ直系のケンブリッジの経済学者であるジョン・イトウエルです。本書の基本的な問題意識は、世界経済のパフォーマンスは、ブレトン

・ウッズ体制下より、その崩壊後の方が、先進国・途上国ともに歴然と悪化しているという事実認識から、変動相場移行に伴う金融・資本市場の自由化と、实体经济のパフォーマンスの関係を明らかにすることです。本書における最もユニークなアイデアは、「世界金融機関」(World Financial Authority: WFA)の提唱でしょう。WFAは、IMFとBISの分業関係を繋ぐものとして位置づけられ、BISがインフォーマルで合意形成的な構造を持つものに対して、WFAは国際金融規制を加盟国に実施させる法的強制の権限を持ち、その上で、WFA

が課す国際金融規制を履行していることが、IMFコンディショナリティーに取って代わるプレコンディショナリティーとするものです。WFAという超国家組織を新たに設立することは、非現実的という誹りもあります。が、本書におけるWFAは、現実に設立されるべき国際機関としてではなく、国際金融ア

# 新任教官の紹介 (平成十三年四月一日就任)



教授  
木島 正明

## 担当講義科目

学部/ファイナンス数学、  
派生証券論  
大学院/ファイナンス工学、  
信用リスク論

出生地・生年月日  
新潟県  
一九五七年三月二日

## 感想・抱負等

専門は金融工学(ファイナンス工学)です。金融工学というといかにして収益を得るかという学問と受け止められがちですが、実際には「リスクを適正に評価して資産の価格を求め」るために必要な、経済学と数理工学にまたがる学際的な学問です。わが国の金融機関はリスクに対する理解が不足しており、

その結果、リスクを無視した融資を行い回収不能になったり、逆にリスクに対して過度に慎重になり「貸し渋り」という社会現象を起こしたりしています。金融機関には収益に見合ったリスクを引き受け、それをコントロールする技術が要求されます。そうでなければ「経済の血液」を循環させるといふ金融機関の役割を担うことはできません。このような現状を打破するため、金融工学理論に習熟した人材が広く求められているのです。京大には大変優秀な学生が多く、微力ながら、金融工学の教育・研究を通じて、わが国の金融システム再生の一助になればと考えています。

## 助教授

岩城 秀樹



## 担当講義科目

学部/証券投資論、現代の経済学  
大学院/マーケットリスク論、ポートフォリオ論

出生地・生年月日  
東京都  
一九六三年十二月十三日

## 感想・抱負等

伝統ある本学に就職する機会を得ることができたことを非常に光栄に感じております。赴任

は、二〇〇一年四月一日でしたので、着任以来、早くも一年が過ぎました。その間、新たな環境に適応しようとする講義、研究、学内事務に慌しく奮闘しておりました。京大生と接して感じたことは、非常にバラエティに富んでいるということです。中には、学部三回生でありながら、大学院の授業に出席し、試験やレポートでは、大学院生よりも良い成績を上げる学生もいて、

さすが京大と感心させられました。一方、この人は本当に京大の入試をクリアしてきたのだらうかと考えさせられるような学生もいました。他大学でも教鞭をとったことがありますが、このように学生層の幅が極端に広

いは初めてです。この点が、もつとも自由の学府、京大らしいところであると思っています。ご期待を裏切らないよう誠心誠意尽力するつもりでありますので、ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

## 助教授

黒澤 隆文



## 担当講義科目

学部/工業経済論、経済英語  
大学院/比較工業システム

出生地・生年月日  
茨城県  
一九六九年五月十六日

## 感想・抱負等

本学大学院での研究生生活の後、広島大学経済学部での四年間の勤務を経て、母校に戻ってまいりました。学部卒業後十年にすぎませんが、在学時はバブル経済の頂点の時期でしたので、世相を見る限り、隔世の感があります。教壇から見る学生気質にはそれほどの変化はないと感じていますが、それでも余裕のな

さはやはり目をひきます。研究では、高品質の工業製品と高い生活水準、強固な地域主義で知られるスイスを中心に、ヨーロッパ工業社会の形成過程を、地域経済論的・経済政策的な視点から分析しています。学部では工業経済論を主に担当します。近年では、日本の製造業の不振を根拠に、製造業中心の経済構造からの脱却を求める声もみられます。しかし、何事にも二面性はあるものです。経済構造の基底を問う歴史的な視点を生かして、日本と東アジア、世界のものづくりについて、学生の関心を喚起するような講義をしていきたいと思っています。

## 助教授

末松 千尋



## 担当講義科目

学部/ITビジネス論、ベンチャー経営論  
大学院/ITビジネス論(戦略系)

出生地・生年月日  
東京都  
一九五六年一月二九日

## 感想・抱負等

私は、変わった経歴を持って

います。大学ではなく、民間の経営コンサルタント分野とその著述活動で、人生のほとんどを過ごしてきました。企業に変化をもたらす役割というのは、決して楽なことではなかったのですが、今後は、大学内部や、それを通じて社会に変化を起こすという、より困難な仕事に挑戦することが、おそらく、期待されているのだと、認識しています。本学部では、「事業創成」

という講座が、新たに設けられました。昨今、「産学協同」の重要性が叫ばれていますが、より実践に近い場で、ベンチャーや大企業、官庁を巻き込んだ新規事業創成のプロデュース機能を、研究・教育しております。是非、同窓会の皆様にも、ご参加・ご協力頂きたい領域です。京都には、京セラ、村田、ローサム、日本電産、堀場、トーセ、サムコなど、無数の、活力と個性ある企業が集中しています。これらの共通の成功の鍵を抽出し、それを京都という地で、人為的に育成・拡大することができればと考えております。

## 講師

ディミター・ヤルナゾフ



## 担当講義科目

学部/日本語E2、基礎比較経済論(留学生対象)

大学院/ Readings in Foreign Economic Affairs (留学生対象)

出生地・生年月日  
ブルガリア ソフィア市  
一九六二年六月十三日

## 感想・抱負等

着任してから約一年経ちました。京都大学経済学研究科での仕事にも大分慣れたと思います。学生教育や研究はこれまで通りやれましたが、留学生関連業務を覚えるのには時間がかかりました。数年前まで留学生でした。留学生在を指導する側に初めて立つてみると、いかに大変な仕事であるかを実感しました。私の留学生生活は、一九八二年にモスクワ国立大学経済学部に入学したことで始まり、一九八七年に同学部を卒業し、

母国(ブルガリア)に帰りました。二回目の留学先は日本でした。一九九三年四月に国費留学生として始めて来日し、日本語の学習を経て金沢大学大学院社会環境科学研究科(博士後期課程)に入学しました。一九九七年三月に同研究科を修了し、博士号(経済学)を取得しました。一九九七年七月、二〇〇一年三月に金沢大学および東京工業大学で学生教育や研究に従事しました。

私の研究分野は、移行諸国(旧社会主義国)の市場経済化です。チェコ、ハンガリー、ポーランドといった中東欧諸国において市場経済移行は成功したと言えませんが、南東欧(ブルガリア、ルーマニアなど)やCIS諸国(バルト諸国を除いた旧ソ連)では難航しています。その原因とは何か、また各地域・国において資本主義のいかなる類型が発達しつつあるか、東欧

やCISにおける体制転換を中国での市場経済化とどのように比較できるかといった課題に取り組んでいます。現在、比較経営学会および進化経済学会の大会・研究会を通して他の研究者と意見を交わしたり、共同研究を行ったりしています。

今後、京都大学経済学研究科での教育や研究に大いに貢献

したいと思えます。特に、多くの留学生を抱える先生方を手助けしたり、学業をより実りのあるものにするために留学生をサポートしたり、留学生と日本人の学生間の交流を深めたりするのに少しでも役立てれば幸いです。経済学研究科がより国際的な場になるように頑張ります。

## 各支部の歩み

### 東京支部の歩み 主な行事

「学園も落ち着きをとりもどした平成元年、同窓会再建話が学部創立七十周年を契機に持ち上がった。」「経済学部八十年史」より

平成元年五月十四日の記念祝賀会の席上、同窓会再発足の提案が「万雷の拍手」で承認され、さらに同年十月七日の東京祝賀会において、金澤脩三氏（昭和八年卒、三菱レイヨン）の再発足宣言でスタートすることとなった。会長に経済学部七十周年記念事業実行委員長をつとめられた古川進氏（昭和十三年卒、大和銀行）、理事長に尾崎芳治経済学部長（昭和三十年卒）が就任した。

東京支部はこれをつけて、同年十二月七日、創立理事会が開催された。

平成元年（一九八九）

●創立理事会  
●本部より推薦された十九名の理事により、本部理事出席のもとに開催され、初代支部長として樋口廣太郎氏（昭和二十四年卒、アサヒビール）が選

（一月十七日） 理事会  
●「支部規約」が制定された。（第一回支部総会に付議）  
（二月二十七日） 第一回東京支部総会開催（東京会館） 出席者二九五名  
●講演「危機に立つソ連経済」（東レ経営研究所顧問・森本忠夫氏）  
●当日は、再発足第一回の総会とあつて、多数の会員が参加し、再開を喜びあつた。

平成四年（一九九二）  
（二月六日） 理事会  
●第一回支部総会報告  
●第一期決算報告（第一期会計年度は、平成元年十二月七日より平成三年三月三十一日とする。）  
●理事任期はスタート時は、平成元年十二月七日より平成四年三月三十一日までとする。

平成五年（一九九三）  
（三月二日） 第三回東京支部総会開催（東京会館） 出席者二二七名  
●講演「複合不況と日本経済」（京都大学名誉教授・宮崎義一氏）  
（九月三日） 理事会  
●次回も引き続き「支部活動援助金」を要請することを決定。

（九月八日） 理事会  
●「支部会計の監査手続」を決定。  
（十一月十四日） 初の監事会（会計監査）  
●西村監事、廣瀬監事により、第四期会計年度の監査が行われた。帳票、領収書等精査の結果、正確且つ適正であることが認められた。  
（十一月二十八日） 理事会  
●第四期会計監査の報告が行われた。

平成七年（一九九五）  
（一月二十四日） 理事会  
●一月十七日、阪神淡路大震災発生に伴い、三月一日開催予定の第五回東京支部総会（案内状発送済）を開催すべきか検討する。その結果、予定通り開催することとし、会員に再通知することとなった。同時に、総会会場において、義援金募金を行うこととした。  
（三月一日） 第五回東京支部総会開催（東京会館） 出席者二一〇名  
●講演「新聞やテレビにのらぬ中国の実話」（株）菱金社長・西村和義氏）  
●阪神淡路大震災義援金の募金を行う。

平成八年（一九九六）  
（三月四日） 第六回東京支部総会開催（東京会館） 出席者二八三名  
●講演「今、企業経営者として考えること」（アサヒビール会長・樋口廣太郎氏）  
●今回はじめて、アトラクシヨンとして、会員による歌曲演奏会が行われた。  
（三月四日） 第六回東京支部総会開催（東京会館） 出席者二八三名  
●講演「今、企業経営者として考えること」（アサヒビール会長・樋口廣太郎氏）  
●今回はじめて、アトラクシヨンとして、会員による歌曲演奏会が行われた。

平成九年（一九九七）  
（三月三日） 第七回東京支部総会開催（東京会館） 出席者二一〇名  
●講演「高齢化社会における健康」（京大総長・井村裕夫氏）  
（六月二日） 理事会・幹事会  
●京都大学創立百周年記念「東京記念講演会」開催について、大学本部より支援要請があり、東京支部としては他学部同窓会東京支部と協力して支援することとした。

平成十年（一九九八）  
（二月四日） 合同役員会  
●支部の事務局体制を整備するために、白井、若森、山崎幹事に事務局員を委嘱した。  
●京都大学創立百周年記念東京講演会を、本年十月に実施することとなり、懇親会の進行を東京支部に担当することを要請され承認する。  
（三月三日） 第八回東京支部総会開催（東京会館） 出席者二二六名  
●講演「生き物の生はしなやかに」（生命誌研究館館長・岡田節人氏）  
（十月十四日） 理事会（支部長交替、第二代表支部長に中村寛之助氏を選出）  
●樋口支部長より辞任の意向表明あり。後任として、中村副会長を推薦され、全員一致で承認、決定する。理事会として、初代支部長としての多年のご貢献に対し感謝の念を表明した。  
（十二月八日） 理事会・幹事会  
●中村新支部長主宰のもとに開

出された。  
●規約草案発議、会計担当理事の指名が行われた。  
●事務局は、アサヒビール（株）京橋秘書部におかれることになった。  
（十二月二十八日） 東京支部の銀行口座が大和銀行日本橋支店に開設された。

平成二年（一九九〇）  
東京支部の当面の主たる行事として、まず支部総会を開催することに、六月開催された本部理事会・総会后、本部と連携しつつ、検討を始める年内開催を目指すこととなった。  
（十月四日） 理事会  
●初の支部総会の開催の方針を決定。日程調整の結果、年末・年始をさげ平成三年二月二十七日（水）、東京会館において開催することを決定した。  
●東京支部の運営方法の討議や「支部規約（案）」の検討が行われた。

（四月三日） 第二回東京支部総会開催（東京会館） 出席者一四四名  
●講演「政策・政治・政治家」（衆議院議員・伊吹文明氏）  
（五月十八日） 理事会  
●第二回支部総会報告、第二期決算報告が行われた。  
●初の理事任期満了。全員再任。  
●初めての「支部活動援助金」の協力状況の報告が行われた。（第一回の合計一、一〇一名）  
これにより、支部総会の年一回の開催、三月三十一日締め的一年期間の決算報告（毎新年

度最初の決算理事会）、三力月に一回の理事会開催等が軌道にのりはじめた。  
平成六年（一九九四）  
（二月一日） 理事会  
●監事および幹事候補を検討。これより各候補に就任を依頼しはじめた。  
（三月二日） 第四回東京支部総会開催（東京会館） 出席者一九三名  
●講演「最初の一步、最後の一步」（京大アメフト監督・水野弥一氏）  
（五月三十日） 理事会  
●第四回支部総会報告、第四期会計報告。  
●「規約改正」（監事制をおこなうために第五条に新たに「監事若干名」を追加する。）  
●役員人事として、新制度にもとづき、監事二名、幹事十五名を新たに選任した。これにより、幹事制がスタートすることとなる。

（七月二十日） 理事会および初・幹事会  
●新監事が参加して、理事会開催。ひきつづいて、新幹事による初の幹事会が理事会と合同で開催された。

（九月八日） 理事会  
●「支部会計の監査手続」を決定。  
（十一月十四日） 初の監事会（会計監査）  
●西村監事、廣瀬監事により、第四期会計年度の監査が行われた。帳票、領収書等精査の結果、正確且つ適正であることが認められた。  
（十一月二十八日） 理事会  
●第四期会計監査の報告が行われた。

（一月二十四日） 理事会  
●一月十七日、阪神淡路大震災発生に伴い、三月一日開催予定の第五回東京支部総会（案内状発送済）を開催すべきか検討する。その結果、予定通り開催することとし、会員に再通知することとなった。同時に、総会会場において、義援金募金を行うこととした。  
（三月一日） 第五回東京支部総会開催（東京会館） 出席者二一〇名  
●講演「新聞やテレビにのらぬ中国の実話」（株）菱金社長・西村和義氏）  
●阪神淡路大震災義援金の募金を行う。

（三月四日） 第六回東京支部総会開催（東京会館） 出席者二八三名  
●講演「今、企業経営者として考えること」（アサヒビール会長・樋口廣太郎氏）  
●今回はじめて、アトラクシヨンとして、会員による歌曲演奏会が行われた。

催された。

- 本部より、平成十一年秋、学部創立八十周年記念式典を行い、同時に同窓会としても十周年記念総会を行う旨、報告があった。東京支部としても平成十二年には第十回総会を迎えることになるので、記念行事を検討することとなった。
- 支部長交替に伴い、事務局は、今後、協和醗酵工業(株)秘書室気付となる。

平成十一年(一九九九)

- (二月二日) 合同役員会
- 第九回支部総会の運営と参加促進について討議した。
- 中村支部長のもとに支部創立十周年記念の準備・検討の委員会をおくことになった。
- 東京支部の活動のために、事務局の確保と開設基金の設定について検討された。
- あらたに、渡部、福武両幹事に事務局員を委嘱した。
- (三月三日) 第九回東京支部総会開催(東京会館) 出席者二九名
- 講演「激動する朝鮮半島とこれからの日韓関係」(産経新聞ソウル支局長・黒田勝弘氏)
- (六月七日) 理事会・幹事会
- 東京支部創立記念事業として第十回東京支部総会を記念総会とすることを決定。
- 十周年にあたり「推進したい活動と整備したい事項」の報告が行われた。
- (九月二十日) 理事会・幹事会
- 「事務局運営規定」が制定された。同時にそれに伴う「支部規約」の改正が行われた。
- 「東京支部事務所開設基金助定(仮称)」の創設を決定。
- 東京支部十周年記念行事について検討。
- 十二月、事務局にはじめて、事務機器(ワープロ)が導入

された。

平成十二年(二〇〇〇)

- (三月三日) 第十回記念東京支部総会開催(東京会館) 出席者二六名
- 講演「二一世紀の科学と人間」(慶心義塾大学教授、元日本物理学会会長・米澤富美子氏)
- (五月十五日) 理事会・幹事会
- 第十回記念東京支部総会報告、第十期会計報告を承認。
- 新たに第十一期期首において、一般会計を分割して特別会計「東京支部事務所開設基金」を創設。
- (十月二日) 理事会・幹事会
- 十周年記念事業「経済懇話会(仮称)」を、平成十三年に実施の方向で検討を進めることとなった。
- (十二月四日) 理事会・幹事会
- 第十一回支部総会の運営および会員の参加促進を協議。

平成十三年(二〇〇一)

- (二月五日) 合同役員会
- 「経済懇話会」について、山崎幹事より実施案の報告があり、本山理事長より、経済学部が全面的に支援する旨の表明があり、五、六月に実施できると、さらに詰めることになった。
- (三月一日) 第十一回東京支部総会開催(東京会館) 出席者二〇四名
- 講演「情報技術の将来と社会」(京都大学総長・長尾真氏)
- (五月二十日) 理事会・幹事会
- 新しい十年にむけて、東京支部活動を整備すべく、常務理事の増員と、組織・体制の「検討委員会」の設置を承認。
- (六月九日) 第一回「東京支部経済懇話会」

- 第一回「東京支部経済懇話会」を京都会場との二会場双方向方式で、学士会館にて開催。会員二二名参加。
- 講演「IMFの変化 アジア通貨危機の教訓」(京都大学経済学部長・本山美彦氏)
- (九月十九日) 理事会・幹事会
- 「新しい体制の検討委員会」のメンバーは理事、幹事および事務局で構成し、支部長の指名により決めることが了承された。
- (十月六日) 第二回「東京支部経済懇話会」
- 第二回「東京支部経済懇話会」を前回と同様、京都との二会場双方向方式で、学士会館にて開催。会員九一名参加。
- 講演「京都の経済学 河上肇・高田保馬・柴田敬から戦後へ」(京都大学経済学部教授・八木紀一郎氏)
- (十二月五日) 理事会・幹事会
- 第十二回支部総会と第三回経済懇話会の運営について協議。

## 大阪支部の歩み

平成二年度

- (九月十四日) 発足理事会(関電会館)
- 支部長に宮崎勇氏(昭和二十四卒、関西電力)就任。
- 支部の範囲を大阪在住者および大阪に勤務する者とする。ことを盛り込んだ「支部規約」を制定(大阪、和歌山、神戸、京都、滋賀、奈良在住の会員に参加を呼びかける)。
- 一月に大阪支部総会の開催を決定。
- (一月二三日) 大阪支部総会開催(ガスビル) 出席者二二九名
- 講演「日米構造協議について」(京都大学経済学部長・伊東光晴氏)

平成三年度

- (十二月十日) 理事会(関電会館)
- (一月二七日) 大阪支部総会開催(ガスビル) 出席者一六一名
- 講演「最近の大学教育について」(京都大学経済学部長・瀬地山敏氏)

平成四年度

- (十二月九日) 理事会(関電会館)
- (一月二六日) 大阪支部総会開催(ガスビル) 出席者二四名
- 講演「新しい経済学の胎動」(京都大学経済学部長・瀬地山敏氏)

平成五年度

- (九月二九日) 理事会(関電会館)
- (一月二六日) 大阪支部総会開催(ガスビル) 出席者一

平成六年度

- (十月十一日) 理事会(関電会館)
- (一月十八日) 大阪支部総会開催(ガスビル) 出席者七十名
- 阪神淡路大震災の翌日、中止の連絡不可能につき開催。

平成七年度

- (十月二五日) 理事会(関電会館)
- (一月二五日) 大阪支部総会開催(ガスビル) 出席者一五一名
- 講演「大震災の残したものを考える」(京都大学経済学部長・菊池光造氏)

平成八年度

- (十一月六日) 理事会(関電会館)
- (一月三十日) 大阪支部総会開催(ガスビル) 出席者一四八名
- 講演「京大百周年と経済学部の現況」(京都大学経済学部長・菊池光造氏)

平成九年度

- (十月二八日) 理事会(関電会館)
- (二月二一日) 京都大学創立百周年記念大阪講演会
- 本講演会開催に伴い支部総会は休止。

平成十年度

- (十月十三日) 理事会(関電会館)

平成十一年度

- (十月十九日) 理事会(関電会館)
- 本部の同窓会会長に就任した宮崎勇支部長の後任に浦上敏臣氏(昭和三四卒、住友生命)を選出。
- (一月二四日) 大阪支部総会開催(ガスビル) 出席者一六六名
- 講演「リスクとはなにか」(京都大学経済学部長・西村周三氏)

平成十二年度

- (十月二五日) 理事会(関電会館)
- (一月二二日) 大阪支部総会開催(ガスビル) 出席者一四四名
- 講演「エレクトロニクスからみたナノテクノロジー」(松下電器産業(株) 常務取締役・三木弼一氏)

平成十三年度

- (十月二四日) 理事会(関電会館)
- (一月三十日) 大阪支部総会開催(ガスビル) 出席者一五九名
- 講演「アフガニスタンと石油パイプライン」(京都大学経済学部長・本山美彦氏)

平成十四年度

- (二月二七日) 大阪支部総会開催(ガスビル) 出席者一六一名
- 講演「最近の大学教育について」(京都大学経済学部長・瀬地山敏氏)

平成十五年

- (九月二九日) 理事会(関電会館)
- (一月二六日) 大阪支部総会開催(ガスビル) 出席者一

# 支部総会報告

## 第十二回東京支部総会

同窓会東京支部の第十二回総会が、二一四名の同窓会員及び本部役員を集めて東京日比谷の東京会館において平成十四年三月五日に開催された。

総会に先立っての場順三氏

(昭和三十三年卒、大和総研特別顧問)による講演会が行われた。「内外の諸情勢〜歴史の転換期に当たって」と題した場順氏の講演は、現在の元気がない日本を叱咤激励する極めて国を思う気概があふれたものであった。氏が大蔵省主計局、国土庁(事務次官)、中小企業金融公庫副総裁を歴任され、長く日本の経済を支えてきた経験を背景とした熱弁であつただけに迫力に満ちた講演であつた。参加者一同、の場順氏に改めて感謝したい。

午後七時からスタートした総会は、東京支部長の中村寛之助氏(昭和二十八年卒、協和発酵工業(株)相談役)、大学評議会のため欠席された本山美彦理事(経済学部長)にかわつて古川顯教授の挨拶が続いて、東京支部常務理事の和田宏氏(昭和二十九年卒)による総務報告が行われ、第一期東京支部会計報告は賛成多数で承認された。

総会後に行われた懇親会は、昭和十三年卒の大先輩から平成十三年卒の社会人一年生まで年齢幅が六十年以上もあるOB諸氏が一同に会した大懇親パーテ

ィーとなった。特筆すべきは、次の通りである。

東京支部副会長の高山栄一氏(昭和一六年卒、東京会館会長)のエネルギー溢れる乾杯(社会人一年目(平成一三年卒)の宮武泰暁氏、臧曉偉氏(東洋鋼板)及び凌雲志(日本石油)のフレッシュな挨拶。臧氏と凌氏は、中国から京都大学に学び日本企業に入社された。今後の活躍を祈念する。紅一点の戸谷圭子氏(昭和六三年卒、マーケティングエグゼクティブ)によるユーモアセンスある挨拶。氏の「次回は多くの女性同窓会員を連れてくる！」に期待したい。

パーティーの最後は恒例の「学歌」と、琵琶湖就航の歌「合唱である。老いも若きも学生時代に戻り、全出席者が肩を組んで一番から六番までを大合唱した。会場全体が湖面のように揺れ動く。

午後九時、副会長安福照嘉氏(昭和二十六年卒)の発声で、「京大」と「同窓会」のますますの発展を祈つて高らかに万歳三唱。来年の再開を期し、名残を惜しみながら散会した。その後深夜まで、有楽町や銀座でいくつかの「分科会」が開催された...と聞く。

(東京支部事務局 記)

## 各年次別同期会

### 活動報告

#### 昭和三十年卒業「五五会」

会員百五十名余で各種懇親会、イベントを定期的に開催。

#### 五五会全国総会

平成十三年十月三日に嵯峨嵐山の渡月亭で開催。夫人同伴を含めて六一名出席。懇親会終了後は天龍寺で茶会を楽しんだ。

その前後には囲碁(十月二日)とゴルフ(十月四日)のイベントを実施、それぞれ三十名近い参加で盛況。次回は平成十六年秋の予定。

#### 関西五五会

原則として年一回懇親会を開催。平成十四年は六月六日心斎橋の日生クラブで昼食会。前後して六月五日囲碁会、六月七日ゴルフ会を開催。囲碁は年三、四回、ゴルフは年二〜三回を予定。東京や海外からも参加がある。

#### 東京五五会

平成十四年二月一日に神田「かまくらクラブ」で三八名参加の懇親昼食会を開催。来年は二月三日の予定。ゴルフは時々CCザ・ファーストでコンペ。囲碁は八重洲口での隔月例会のほか、四月に桜満開の箱根強羅で一泊の囲碁合宿。

(永野耕作、山名二郎 記)

#### 昭和三十一年卒業同期会

##### 一、東京内紳会

平成十三年十二月二十日、恒例の忘年会が日比谷の松本樓において開催され、関西から沖野貞夫、兒玉光明、大長則雄の三氏が、また、名古屋から磯村巖氏が参加された。出席者総数は四十二名であつた。幹事は、四反田正司、高須淳、渡邊明の三氏である。

なお、ゴルフ会は、平成十三年六月五日及び十一月二七日小山カントリークラブで開催され、いずれも五組の参加があつた。

##### 二、クラス別同窓会

(一)一組の「六・六会」  
平成十三年六月六日六時、学生会館において開催され十六名が参加。(幹事 宗像昭雄氏)

(二)二組の「九・九会」  
平成十三年は、台風のため中止。

(三)三組の「ユウコウ会」  
平成十三年十一月十六日、京都にて開催され、二五名が参加。(幹事 樋口國一氏)

(四)四組

平成十三年九月十六日、学生会館において昼食会が開催され、八名が参加。(幹事 小林捷剛氏)

(松原淳文 記)

#### 昭和三十三年卒業「三三年会」

##### 一、東京三三年会

東京三三年会は、現在約八十名が在籍しています。

平成十三年の新年会は、一月十八日、日生赤坂職員倶楽部で開催、四十名が参加しました。

奇数月の第三木曜日赤坂見付サントリービルペンデュオ口ツソで行われる昼食会は、会費二千円、その時々話題を交えたスピーチからの報告を聞きながら相互の懇親を深めています。毎回約三十名の出席です。

同好会としてはゴルフ会と囲碁会があり、ゴルフ会は、四年前より「三三洛友ゴルフ会」として春は神奈川の中津川カントリー、秋は千葉の泉カントリーで、大体二十名の参加で行われています。

ゴルフ同好会に続いて囲碁の同好会が「洛友碁会」という名称で結成され、二十数名が登録されています。

毎月第三木曜日を定例会合日にし、八重洲の「いずみ囲碁サロン」という碁席に集まっていますが、実働は十名前後です。

同学年が中心ですが、諸種な縁で現在は他学年や他学部にも及んでいます。関西にも同期の囲碁会があり、この三月には京都で初の東西交流碁会を開きました。また一昨年ベルリンで開催されたヨーロッパ囲碁選手権戦に七名が参加、昨年はアイランドで上位入賞を果たし、今年はクロアチアへと活動も国際化してきています。学部全体の同窓会ベースで囲碁大会が開けたら願っています。

昼食会 奇数月  
第三木曜日十二時  
赤坂ペンデュオ口ツソ

連絡先 (ダイエーOMC)  
会長中田一男

☎〇三 三四九五 八五五一

ゴルフ会 春秋年二回  
連絡先 木村逸夫(自宅)

☎〇三 三九二一 五五三八

囲碁会 毎月 第三木曜日十時  
四時

八重洲 いずみ囲碁サロン  
連絡先 林 武彦(自宅)

☎〇四三 二五五 六一〇四  
(山崎源健 記)

二、昭和三十三年関西同期会  
三二年卒業関西地区の同期会は毎年、大阪地区同窓会総会出席から始まります。平成十三年の参加者は二五名、年次別ではトップの出席者数でした。引き続き大阪ガスピルの近所で二次会を開きおおいに盛り上がりました。

偶数月の第一金曜日には、昼食会を開催しており、最近の話題はもっぱら健康問題に集中しています。

ゴルフ会は、春秋年二回実施、三、四組の参加者で、飛距離の落ちたのを嘆きながらのプレイです。殆どが年金生活に入っていますので、コストを下げるために、ウィークデイのシニア割引を利用してはいます。

囲碁の会が一番活発で、毎月第一金曜日に行っており、参加者は十名前後ですが、有段者が中心です。

特筆の面白い行事としては、出席率が驚異の七十%というE三組同窓会が昨年四月十九日、京都にて開かれました。

東京から大挙の参加。時計台を背景に記念撮影、本山学部長の歓迎ご挨拶、「ETへの積極的取組み、大学院の充実、大学法人化への対応などの現状と展望」に感動と理解、建て直し直前の「最後の法経第一教室」を見学、教壇に立ち懐旧しきり、完成間近の学部新ビルを近望し、あと吉田神社の「さざれ石」、吉田山の「三高寮歌碑」、真如堂、黒谷を散策後、「六盛」にて大盛会となりました。E三組思い出の「アバンチポポロ」を蛮声合唱。物故者すでに九名。元気で再会を誓い合いました。

この三月二十七日には、初めての試みとして、東西交流暮会を、関東から六名の参加者を得て、総勢十八名で京都にて開きました。熱戦の後は、懇親会、年を感じさせない痛飲ぶりで、最後はカラオケ大会となり琵琶湖周航の歌の大合唱にて散会となりました。

尚、囲碁の会では、三三年、三四年組とも年二回の定期親睦暮会も行っています。

(片岡正彦、徳田重信 記)

昭和三三年卒業「燦燦会」

一、東京燦燦会

(一) 月例昼食会

毎月第三水曜日、赤坂サントリアビル「ペンデオロツソ」にて開催。会員のスピーチを中心に会食懇親。毎回平均三十名出席。平成十四年三月例会で通算一八八回。

(二) ゴルフ会

年二回開催。四月十九日第一四回コンペをレインボーカントリー倶楽部で挙行。

(三) 登山同好会

年十回程度、四月二十七日第四十四回を予定(秩父御岳山、標高一、〇八一メートル)。

(四) 囲碁クラブ

毎月随時暮会開催。

(五) 現代懇話会

年三回、一回約二時間の問題提起と討論、その後懇親パーティー。四月三日第二一回「来るべき社会システムを探る」を開催、二五名出席。

(山本喜朗 記)

二、燦燦会(大阪)

【活動近況】大阪地区(会員数七四名)としては、会員資格を経済学部限定せず、会員の推薦があれば会員の賛同を得て他学部の卒業生も「準会員」として入会を認めている。

年間の活動事業は次の通りである。

(一) 昼食会

「三、五、七、九月の年四回大阪倶楽部にて開催。一回二・五時間。二五〜三十名ノ回参加。」

平成十二年三月、準会員の大阪高裁長官(当時)・岡田良雄氏(三四、法卒)による「司法修習制度」に関するスピーチ。

平成十二年五月、準会員のプール学院大学教授・栗本一男氏(三三、教卒・一九七二〜一九九四 ユネスコ勤務)による「ユネスコについて」のスピーチ。

平成十三年七月、会員の大阪ドーム社長・今田隆氏の幹旋で「近鉄対ダイエー戦」を特別ルームにて観戦。

平成十三年九月、会員の大阪

府公安委員長・伴恭二氏による「警察改革と治安について」のスピーチ。

平成十四年三月、会員で中国・西安市の西安交通大学に語学留学し、一年間の課程を修了、この二月末帰国した大森経徳氏による「中国・語学留学を終えて」のスピーチ。

(二) ハイキング会

「四又は五、十又は十一月の年二回開催。夫婦同伴可。」

平成十二年四月、「上醍醐」花見。十一月、「六甲山」。

平成十三年五月、「湖東三山」。十一月、「箕面勝尾寺」紅葉。

(三) ゴルフ会

「定例会・四、十月の年二回開催。十五〜二十名ノ回参加。会員より賞品提供。東京地区より参加あり。」

「同好会・三、五、九、十一月の年四回開催。十二〜十五名ノ回参加。」

(四) 囲碁会

「毎月第三土曜日に大阪倶楽部にて開催。十〜十五名ノ回参加。三、九月は、三二年卒の先輩との対抗戦「道遥会」を兼ねて開催。二十数名ノ回参加。」

(五) 忘年会

「毎年十一月二二日にKKRホテルオーサカにて開催。約四十名参加。」

(小山禎三 記)

昭和三四年卒業「山紫会」

昭和三四年(一九六九)卒の山紫会のメンバーは、六十五歳以上、しかし半数以上は二度目、三度目を含め元気に仕事をしております。

この二十年の山紫会の活動は、

一、運営

関東関西で四名ずつ、(クラブ又代表)計八名の幹事で運営している。

ゴルフ、トレッキング、囲碁の幹事は東西で最適の人が当たる。

二、一、五年毎の記念大会

五年に一度、京都が主で開催(夫人同伴)。

一九九九年は卒業四十周年で都ホテルで盛大に行いました。

二、二、新年会

一月に東西で、各々夜の会食を行う。

二、三、昼食会

東京 偶数月第二水曜日、日比谷日生ビル地下レストランレザブル。

大阪 奇数月第二水曜日、大阪梅田エスカイヤクラブOSビル店。

共に開催日、場所が決まっているので、東西の飛び込みの交流がある。

三十〜四十分は仲間が交代で講師を勤め、有意義な楽しい会話が続けている。

二、四、ゴルフ会

東西各三〜四回ノ年 東西交流あり。

法学部山紫会(三四卒)との相互参加もある。

二、五、トレッキング

五〜七回ノ年 日帰り。年一回は泊まりを入れた旅行(昨年は尾瀬)が始まった。

年々参加者が増えている。

交流、法学部山紫会との相互乗入れも始まっている。

(坂本典之 記)

二、六、囲碁

経済学部の前年の学年との

### クレジットカードの発行案内

同窓会では、クレジット会社(JCB、VISA)と提携し、「同好クラブJCBカード」、「同好クラブVISAカード」を発行しています。このカードは、同窓会の会員のみが加入できるステイタスの高いカードです。デザインは七十周年記念に使用しました写真(飯野春樹氏撮影)を圖案化し、皆様に馴染みの深い時計台を取り入れたもので、会員の方々に持ちいただくことにより、会員相互の親睦を高め、母校への愛着が一層深まることを目指しております。

同窓会では、このカードの発行により、会員のみなさまの住所や勤務先の変更を正確に把握できるとともに、カード利用額の一部を提携手数料として受け取ることができ、財政基盤確立の一助となっております。また、会員の皆様におかれましては同窓会の年会費をこのカードにより自動振替とすることができ、大変便利かと存じます。

このカード発行につきましては、毎年、卒業生に対してご案内いたしておりますが、既にお持ちのカードとあわせて本カードをお持ちいただけますので、本趣旨をご理解いただき、ご入会いただければと思っております。

ご希望の方は、同窓会事務局にご連絡いただければ、「ご案内」の「申込書」をお送りいたします。

お問い合わせ先:

京都大学経済学部同窓会事務局

〒六〇六 八五〇一 京都市左京区吉田本町

TEL 〇七五 七五三 三四一九

FAX 〇七五 七五三 三四九〇